

# KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]



**特集**

*Special*

世界市民を育む、学びがある。

2017.10.16  
257号

## スポーツを通じて 人生をもっと豊かに！

数字でみる関学

関西学院大学に入学を決めた最も重視した理由

突撃！KG CLUB

体育会 ワンダーフォーゲル部



# 学長のポケット

## 学生スポーツの意義

東京オリンピック・パラリンピックが2020年に開催されます。そのこともあり、学生スポーツの振興に関する議論が本格化してきました。日本版NCAAへの関心が高まっている一方、オリンピックが商業主義に流されて規模が肥大化しているとの指摘もあります。

学生スポーツも競技である以上、勝敗は大切ですが競技を通じて学ぶことの意義はより大きいものと考えます。競技で勝つことだけが唯一の目的になったり、宣伝効果を求めたりすることは厳に戒めなければなりません。学生スポーツの目的は、学生一人ひとりの成長にしなければならないと考えます。学生スポーツを通じて、チームワーク力やリーダーシップといったコンピテンシーを身に付けることは勿論のこと、勝つための戦略をミーティング等で話し合うことなどはハンズオン・ラーニングの一つと言えるでしょう。まさに、学生スポーツが大学での学びの一環であるとの認識が重要です。

関西学院大学体育会は“Noble Stubbornness”をモットーに、現在、文武両道を掲げて競技や勉学に励んでいます。この精神を大学としても応援すべく、体育会や文化総部の活動を正課外教育として位置付けていこうと考えております。関西学院大学体育会が、学生スポーツのモデルとしてさらに発展していくことを心から期待しています。

(学長・村田 治)

### 表紙 /

( 多田 修平さん )  
法学部3年生



8月に英国ロンドンで開かれた第16回世界陸上競技選手権大会の男子4×100mリレーで銅メダルを獲得した。「とても緊張した」と振り返る大舞台でも、トップ走者として持ち味であるスタートと序盤から中盤にかけての加速で実力を発揮。チームに勢い

を与え、同大会で日本初となるメダル獲得に大きく貢献した。

関西では常に注目されていたが、全国にその名が知れ渡ったのは6月10日の日本学生陸上競技個人選手権大会(神奈川県平塚)の男子100m準決勝で追い風参考記録(追い風4.5m/s)ながら、国内の大会では日本人初の9秒台となる9秒94をマーク。そこからは一気に駆け上がった。続く決勝で当時の自己ベスト10秒08を記録すると、6月24日に開かれた日本陸上競技選

手権大会(大阪・長居)の男子100m決勝では10秒16で見事2位に輝き、世界陸上への切符を勝ち取った。

「世界陸上は今までの競技人生の中で最も印象に残る大会になりました。でも、最大の目標は2020年の東京五輪。そこまでに9秒台を安定して出せる選手になって、必ずメダルを獲得したい」と現状に満足する様子はまったく見られない。ぶれない強い意志で、東京五輪での活躍を誓う。

# KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

## CONTENTS

No. 257

- 1 学長のポケット  
表紙人
- 2 特集  
世界市民を育む、学びがある。  
スポーツを通じて  
人生をもっと豊かに!
- 9 就職の窓  
就職サポートプログラムを  
有効に活用して  
計画的な準備・対策を!  
シューカツに勝つ
- 11 ひととひと
- 13 Research & Research  
神学部 加納 和寛ゼミ  
理工学部物理学科 加藤 知研究室
- 15 突撃! KG CLUB  
体育会 ワンダーフォーゲル部
- 17 My favorite KG  
ロバーツ リア ジーンさん(米国)  
GO Global!  
三好 宏樹さん(総合政策学部4年生)
- 18 数字でみる関学  
関西学院大学に入学を決めた  
最も重視した理由
- 19 Campus News  
関学カプセル  
KGグルメ  
学院通信
- 24 世界の街角から  
スペイン 長崎 鈴香さん
- 25 Libraring  
「第18回J.C.C.Newton賞」作品募集!
- 26 聖書に聞く  
総合政策学部宗教主事 村瀬 義史



# 特集 Special

世界市民を育む、学びがある。

座談会

## スポーツを通じて 人生をもっと豊かに!

「する」ことを通じた学びや成長、「見る」「支える」といった関わり方による人のつながりや充実感など、スポーツには人生を豊かにしてくれるさまざまな力や可能性があります。スポーツの魅力について、ポジティブ心理学を専門とする大竹恵子・文学部教授を進行役に、世界陸上銅メダリストで陸上競技部の多田修平さん、デフサッカー女子日本代表でサッカー部女子の宮田夏実さん、スポーツ経営学が専門で陸上競技部のコーチでもある林直也・人間福祉学部准教授に語り合っていました。

**大竹** 最初に、いつ、どうい  
きっかけて競技を始めたのか  
教えてください。

**多田** 陸上競技を始めたのは  
中学1年生の時です。小さい  
頃から走るのが好きで、小学  
校の運動会の徒競走でも1位  
を取ったりしていたので、中学  
生になったら陸上部に入ろう  
と決めていました。

**宮田** 難聴のため、5歳離れ  
た兄の影響で、小学生からデ  
フサッカーという聴覚障害者  
のサッカーを始めました。でも  
月に2、3回、大阪にあるチー  
ムに行っていたくらいで、本格  
的には中学校の部活です。男  
の子だけの中でランニングや  
トレーニングに付いていくのに  
精いっぱいでしたが、楽しかった  
です。

**大竹** 宮田さんはデフサッ  
カー日本代表でもありますね。

**宮田** デフサッカーには、デフ  
リンピックという4年に1度の  
大会があり、その前年に世界  
ろう者サッカー選手権が開か  
れます。私は中学3年生で世  
界選手権、高校1年生でデフ  
リンピックに出ました。今年が  
デフリンピックの年だったので  
すが、前年の世界選手権に出

場していなければ出られませ  
ん。日本は女性競技者が少な  
い上に、仕事の関係や経済的  
な事情で人が集まらず世界選  
手権に出られなかったため、デ  
フリンピックも無理でした。

**林** 競技力とは別に、経済的  
な問題があるのですね。

### 結果を残すこと のつらさ 練習のつらさに勝る

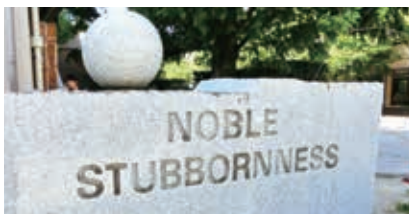
**大竹** 大学まで続けるには大  
変な思いもされたかと思いま  
す。練習や試合で印象に残り  
ていることはありますか。

**多田** 中学から大学まで順  
調に記録も伸びていったので、  
あまり苦難とかはないですね。  
中学生の頃は練習がつらくて  
正直やめたいと思ったことも  
ありましたが、今年8月の世

界選手権での銅メダルなどの  
ように、結果を残すことの方  
れしさの方が練習のつらさよ  
りも強いので。しかも、結果が  
よければよいほどつらさが  
倍になり、さらに強くなるう  
という気持ちが強くなります。

**大竹** スランプみたいなものは  
なかったのですか。

**多田** 特には。毎年ベストを出



「NOBLE STUBBORNESS」は、関西学院大学体育会のモットーで「高貴なる粘り」と訳され、日々の鍛錬、試合に臨む精神を表している。



更新していますから。  
**林** 本当に、「スランプはこう  
いうふうに出たらいいよ」  
といったアドバイスはできない  
ですね。ずっとベストが出てい  
るから。

ただ、今まで伸び悩んだこ  
とがない彼ですが、永遠に伸  
び続けるのは難しく、どこか  
でいったんは止まるはずですよ。  
ずっと順調にきているから、止  
まったときにどう思うか。私  
も競技者だったので分かりま  
すが、記録を伸ばすために今  
まで通り練習もするし、新し  
いことにもチャレンジしている  
のに記録が落ちるということ  
が出てきます。そこで「今やっ  
ていることは間違いないじゃ  
ないか」と悩むのではなく、やり始  
めたことを信じて貫くことが  
大事だと思えますね。

### 身振り手振りや 手話を駆使した コミュニケーション

**大竹** 宮田さんは今は関学  
サッカー部に所属されています  
ね。練習や試合で気を付けて  
いることはありますか。

**宮田** 試合中もみんなが何  
を言っているか分からないので、

誰よりも周りを見ることを意  
識しています。後ろからの声も  
聞こえないから、なるべく後ろ  
を見たり。でも、まだまだなの  
で、もっと周りを見られるよう  
になりたいです。

**大竹** 体育会のチームで競技  
をするのは、なかなか勇気がい  
ることだと思つたのですが。

**宮田** 周りの皆さんのおかげ  
です。難聴者の私を普通に受  
け入れてくださって、当たり前  
のように接してくださることに  
がすごくありがたいと感じ  
ています。周囲の人の支えや  
フォロワーがあつてこそ、今こ  
でサッカーを続けられていると  
思います。

**林** コミュニケーションで工夫  
はありますか。

**宮田** 例えば、ミーティング  
の時は、言っていることを隣で  
ノートに書いてもらったり、プ  
レー中は身振り手振りで「待  
て」「行け」とか伝えてもらっ  
たりしています。相手にばれない  
ように、部員にも少し手話を  
覚えてもらって、手話でマーク  
する選手の背番号を確認する  
こともあります。

**大竹** 忘れられない経験とか  
瞬間を教えてください。

## 座談会



# 特集 Special

世界市民を育む、学びがある。

**宮田** 中学3年生の時のトル

コでの世界選手権です。閉会式で、世界中に耳の聞こえない人たちがこんなにいるんだというところにすごく衝撃を受けました。聞こえないのは自分一人だけじゃないんだ、仲間がいるんだと思えて、今でも忘れられません。

**多田** やはりロンドンの世界選手権の4×100リレー銅メダルです。あの時が初めての世界大会で、そこで銅メダルを取れたというのが今までの陸上人生の中で一番うれしかったですね。

## いつも通りに 笑顔で楽しみ 自分の走りを貫く

**宮田** 多田さんをテレビで見

ていて印象に残ったのは、とても楽しそうだなということでした。私は試合前になると、失敗したらどうしようとなガティブになりがちなのですが、多田さんはどうやってプレッシャーをはねのけるのですか。  
**多田** いつも通りの走りを楽しめたらいいな、と思って走るようにしています。笑顔で競技をしたら、気分も高まってい

いパフォーマンスができると思

うので。多少のプレッシャーはありますが、僕はプレッシャーがあった方が力に変えられるという自信があるので、とりあえず自分の走りができたら勝てるかなと思っています。

とにかく自分の走りを貫く。サッカーだったら自信を持って自分のプレーをするということが大切なんじゃないでしょうか。

**大竹** テレビで応援しているも本当にいつも笑顔で、今その瞬間を楽しんでいらっしやるのが伝わってきますね。

**多田** 陸上が好きで、走っている時、試合に出ている時が一番好きなので、自然と笑顔になつているのかなというのはありますね。

**林** 普段からネガティブなことは絶対に言わないですね、いつも前向きで。多分緊張もしているし、多少の不安はあると思うのですが、それを口に出さない。頼もしいですよ。普段ネガティブなのに、試合の時だけポジティブになろうと思ってもなかなか難しい。普段の積み重ねが本番に出てくるから普段通り、いつも通りということ

になるんだと思います。

## 大切な仲間たち との出会い 関学でよかった

**大竹** スポーツを通して得たものはありますか。

**多田** 仲間です。陸上をしていなかったら関学の仲間たちと出会えてなかったですし、応援もされていなかったでしょう。大学スポーツだからこそチームメイトがいて、応援やサポートをしてくれるわけ、僕にとっては仲間が一番大きな存在です。

**宮田** 始める前は「聞こえないから無理だろう。分かってもらえないだろう」と諦める部分が多かったけれど、サッカー部のみんなが諦めずに私にぶつかってきてくれるのがうれしくて、私も頑張つて伝えていこう、無理でもやってみよう、自信を持つてぶつかれば分かってくれると思えるようになりました。サッカーを通じて諦めないことの大切さを学びました。サッカーがあったからこそここまで来ることができたし、今の自分もあると思つています。

**多田** 関学に入ってからタイムが急に伸びているのは、環境はもちろん、コーチの方々の確かな指導や仲間たちのたくさんのサポートのおかげです。関学を選んで本当によかったと思つています。

**宮田** 私も、関学でよかったなとすごく思います。サッカーをする前は友達なんて必要なかったんですけど、

## スポーツを接着剤に 地域や大学への 愛着が深まる

**大竹** スポーツはするものだと考えがちですが、別の関わり方もあります。林先生のご研究について教えてください。

**林** スポーツというと、多くの

いかなと思つていたんですけど、仲間は大それたことと気がされませんでした。一つの目標に向かっていく素晴らしいと感じたり、勝つてうれしかったか負けて悔しかったかという気持ちを共有したり。先輩や同級生、後輩に恵まれているなと思つし、だからこそ楽しくサッカーができています。ありがとうございます。

**大竹** うれしいですね、お一人

の方が体を動かす、するスポーツを想像され、健康やダイエットなどの手段と思われがちです。もちろん間違いではないですが、スポーツの力や可能性は、すること以外にもあるんじゃないか、見ることでいろいろな効果があるんじゃないかと思つて、見るスポーツを通しての可能性について研究しています。例えば、家族でスポーツ



おお たけ けい こ 文学部 **大竹 恵子** 教授

研究分野／健康心理学、心身の健康増進、ポジティブ感情、幸福  
山口県出身。神戸女学院大学人間科学部人間行動科学専攻卒、同  
大学院人間科学研究科博士後期課程修了。日本学術振興会特別研  
究員、米国ミシガン大学心理学部客員研究員、東北学院大学教養学  
部准教授を経て、2010年から文学部総合心理科学科教授。著書に「保  
健と健康の心理学」「女性の健康心理学」「ポジティブ心理学」など。



観戦に行つて楽しい時間を過ごす、友達同士で盛り上がりつつ交流する、ストレスを発散する。さらに、自分が応援しているチームが勝つことで、自分が勝つたかのような達成感を味わうなどですね。

最近行っている調査は、地域に対する愛着を地域密着型スポーツチームによって高められるのではないかとというものです。近年、地域への帰属意識が薄れ、地域のつながりが弱くなっていることが問題視されていますが、Jリーグなど地域密着型チームを応援することで、いつの間にか地域のことを好きになっていく、そういう力がスポーツにはあるのではないだろうかということですね。

**大竹** 大学に関しても、同様の傾向が見られるようですね。**林** 大学への帰属意識も薄れていて、とりあえず大学に入つたものの、やりたいことが見つからなくて退学するといった学生が全国的に増えているようです。大学に対する愛着や帰属意識も、大学のスポーツチームにより高められるんじゃないかなと考えています。地域愛着や大学愛着というのは一

見スポーツとは関係がないようですが、スポーツをうまく活用すれば、スポーツが接衝剤になつていい方向に導いてくれるんじゃないか、そういう研究をしています。

## 二人の頑張る姿が 関学関係者に 勇気や誇りを与える

**大竹** 多田君が大会などに出場した場合は、必ず関西学院大学の名前も出ます。これには多くの関学同窓生の方が親しみを感じ、関学出身であることを誇りに思われているのだろつと思えます。

**林** 彼が世界選手権に出た後、いろいろな方から「頑張つてるね」「よかったね」と声を掛けていただきました。中でも印象に残っているのが「励みになります」という言葉です。同じ関西学院に属するメンバーの一人があんなふうに頑張ってくれると、自分も勇気づけられる、励みになると。それについていい言葉だなと思いますね。単に速いとか強いだけではなく、気持ち的に影響力が大きいんだなと改めて感じています。**大竹** 私は、心理学の中でも

健康心理学やポジティブ心理学を専門にしています。私たち人間は、うれしい、楽しいという気持ちになつたり、お二人のように頑張れる力を持つていたりしますけれども、それはどうやったらつくられるのだろう。生きることがしんどい状況でも「頑張ろう」「はい上がり」という強い力を持つていて、どうすればそんな強さを持つて研究を進めています。

常にポジティブな多田君はまさに私が知りたい強さを持つている研究対象そのものなのですが、人間が持っている良さや強さに焦点を当てて心身の健康や適応との関係を検討したり、私たちが楽しい、うれしいといった気持ちを感ぜたり、お二人のように感謝の気持ちにあふれて温かくて幸せな状態は、どのように生じ、それが心身の健康や対人関係、社会の中でどのような機能をもちたらずのか、ということを探究する学問です。**多田君、宮田さん**は本当に輝いていて、多分それぞれ大変なことやしんどいなと思うこ

ともあるはずですが、それでも前向きに頑張っている姿が、スポーツをしていない私にもパワーをくださる。林先生がおっしゃるように、見るスポーツの力の大ききみたいなものをお二人の活躍を見ているとすごく感じます。

**宮田** テレビで多田さんが頑張つていらつしやるのを見て、自分も頑張ろうと思えたり、誇らしい気分にもなれました。勝手に仲間だと思っています。



はやし なおや 准教授  
人間福祉学部 林直也

自分も頑張ろうと思えたり、誇らしい気分にもなれました。勝手に仲間だと思っています。

自分で頑張ろうと思えたり、誇らしい気分にもなれました。勝手に仲間だと思っています。

**大竹** 関学出身者にとつて、お二人の活躍を見ることほど勇気づけられたり夢や希望を感じさせてくれたりすること

せんでした。昨年のリオデジャネイロオリンピックの男子4×100メートルリレーで日本が銀メダルを取ったことも知らないくらいでした。ところが、今や多田修平君の大ファンです。でも、多田君が関学生じゃなかったら、ここまでのファンにはならなかったと思います。私が勤めている関学の学生が多田君、関学という共通点つなが

研究分野／スポーツ経営学、スポーツマネジメント、スポーツマーケティング  
滋賀県出身。関西学院大学経済学部卒業、大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程満期退学。2011年に人間福祉学部社会起業学科学准教授。2002年第79回関西学生対校選手権 200m 優勝(20秒67、関西学生記録)。2003年度アテネオリンピック強化指定選手(200m)、アテネオリンピック参加B標準記録突破(200m)。



# 特集

Special

世界市民を育む、学びがある。



## 秋の試合を見に行こう！

林 直也先生のお話にもあるように、スポーツは決して「する」だけのものではありません！「見る」「支える」「応援する」など、さまざまな形で私たちはスポーツに関わることができます。そこから新しい出会いやつながりが生まれるかもしれません。また、実際に試合を見に行けば、学生や関係者が一つになれる熱狂的な応援を通して、日常生活ではなかなか感じることができない大きな感動や達成感を味わうことができます。

秋のリーグ戦を戦っているチームは、まだまだあります。たぐさんの人を誘って、ぜひスタジアムに足を運んでみてください。そして、関西学院大学の選手たちを熱く応援し、全員が一つとなって会場を盛り上げましょう！  
詳しい試合日程などは、各チームのホームページからご確認ください。

りがあるからファンになったのではないか。人には、自分と共通点があるものに興味を持つという特徴があると考えています。

だから、まずはチーム関学として、関学をキーワードにうまくプロモーションできれば、つながっていくのではないかと考えています。「スポーツには興味ないけど、関学の仲間が頑張っているから応援に行こう」という感じですね。地域や大学、職場などの共通項でつながっているから応援したい、それがヒントかなと思います。

## 応援を受けることで 気力がアップし 競技力も高まる

大竹 私は何をしたわけでもないのに、多田君、宮田さんの

ことを勝手に誇りに思っているという感じですね。私には、お二人がどれだけほしいのかということ実は実感を持っては体験できないけれども、自分の人生を重ねて見ているのかなと思うところがあります。

例えば、お正月の箱根駅伝でも報道で「実はこの選手、こういうことがあってね」「みたいなことを聞くと、「こういう思いをしたから、この涙なんだ」と思うだけですごく親しみを感じたり、応援したくなったりします。今まで何にも知らなかったのに、少し背景を知りただけで頑張っていると思えたりすることが多分にあるので、見ている人たちがそれぞれの状況や経験、経緯は違っていますが、自分の人生を重ねて応援しているのかな

という気がします。周りからの支え、応援をどう思われますか。

多田 僕一人では当然こま

で来られていないですし、仲間の応援をはじめ、家族やコーチ、監督の支えがなければこのような結果は残せていません。応援は僕にはとても力になります。応援によって気持ちが高まったら競技力も高まっていくので、応援というのは本当に大事なものだと思っています。世界選手権の後にも、「ありがとう」「おめでとう」という言葉をたくさん頂きました。

## 一人の人間として 支えてくれる 仲間たちに感謝

大竹 心に残っている言葉はありますか。

多田 言葉ではないのですが、世界選手権の後に関学の部員たちは本当にいつも通り友達として接してくれました。

言われたことで心に残っている言葉はありますか。

宮田 ふとした時に、友達に「なんで自分はこうなんだろ。難聴じゃなかったらよかったです」と漏らしたことがあったのですが、「聞こえないことは夏実の個性や」「聞こえても聞こえなくても、夏実が変わりはないから」と言われたことが



法学部3年生 多田 修平さん

大阪府東大阪市出身。陸上競技部所属。2017年8月に開かれた世界陸上競技選手権大会(英国)男子4×100mリレー銅メダリスト、100mでは準決勝進出。100mの自己ベストは10秒07(2017年全日本インカレ)。

世界で結果を残そうが、対等の関係、同等の立場で見られているというのは、僕にとっても結構うれしいですね。

大竹 雲の上の人みたいに扱われるとかじゃなくて。

多田 普通に接してくれます。メダルを見て触って「こんなもんか」「みたいな、そういう関係が僕は本当にうれしいです。

大竹 宮田さんは、周りから

忘れられません。宮田夏実という一人の人間として見てくれているというのが、私はうれしいなと思います。

大竹 どのような状態であっても、常に周りはいいことも悪いことも含めて、一人の人間としてちゃんと存在を大切に思ってくれているということですね。そして、多田君、宮田さんの言葉も常に周りの人へ





の感謝にあふれています。そういう関係性が、お二人をより強くしているのかなと感じます。

## 睡眠や食事など日常生活から正していく

**大竹** 今、まさしくスポーツに打ち込んで、素晴らしい貴重な経験を積みながら、いい時間を過ごされていると思います。自分の中で心技体のバランスの保ち方、整え方というのはありますか。

**多田** 規則正しい生活を送ることです。日付が変わる前には寝るようにしています。食事面でもカップ麺は絶対に食べないですし、お菓子もなるべく控えるようにしています。日常生活から正すということを基本にしています。

**宮田** 私も最低7時間か8時間は寝ないと駄目なので、睡眠時間はたっぷり取るようにしています。

**大竹** やはり睡眠は大事ですか。

**林** 休息は必要ですね。ずっとトレーニングばかりしていると駄目です。規則正しい生活



ご飯を食べて筋力をつけないと勝負できないし、タイムも伸びていかないと思うので、そういう面でも食事には気を付けており、競技力が上がればいいなと思っています。

**宮田** 朝ご飯は毎日ちゃんと食べます。結構食べる方で、遅刻しそうななくても食べてから行きます。朝昼晩きっちり食べるようにしています。

## 東京オリンピックで個人でメダルを取れる選手に

**大竹** 余談ですが、子どもたちの心身の健康をチェックするときに、「朝ご飯食べてきた？」と聞くことがあります。

「はい」と言う子たちは、朝早く起きており、かつ起きた時におなかがすいている、つまり前日の日は早い時間に寝て、夜中におやつとかを食べていないということです。一方、お年寄りには「ご飯おいしい？」と聞きます。「おいしいよ」と答える人の人生は健康度が高いので、おいしく食べるのができるというのはいつの幸せの指標といえるかもしれません。

それぞれ今後の目標はあり

ますか。目の前の小さな目標でも、中期でも長期でもいいです。

**多田** 今までオリンピックで日本人が男子100メートルで決勝に進んだことはありません。

なので、3年後の東京オリンピックを目標に、それまでには絶対に9秒台で走って、個人でメダルを取れるような選手になりたいです。4×100メートルでは、すでに銀と銅を取っているのに、今度こそメダルを取りたいですね。

しかも3年後のためだけではなく、東京オリンピック以降も長期的にトップ選手でいられるような練習を積んでいきたいなと思っています。

**大竹** 世界選手権など大きな大会で結果を出したことに変わりました。日本で活躍しても、世界には僕より速い人がうじゃうじゃいるので、そういう人に勝つためにはもっとトレーニングを積まなくてはならないと思っています。日本だけでは満足できないというか、世界の選手たちに対抗できる

ような走りをするし、や

はり個人でオリンピックや世界選手権でメダルが取れる選手になりたいなと思っています。

**大竹** そのいい意味での負けん気は、どこから来るのでしょうか。

**多田** 僕より上に強い選手がいると、もっと頑張ろう、練習に打ち込もうというポジティブな気持ちになれるんです。負けず嫌いというのがあってもいいですね。

**林** それは大いにあると思いますね。

## デフサッカーを通じて聴覚障害者について知ってほしい

**大竹** 宮田さんは今後についてどう考えていますか。

**宮田** デフリンピックの知名度が日本ではとても低くて、2014年の国の調査では11.2%でした。他の国では50%ほどなので、海外に比べるとかなり低い数字です。私が最初に日本代表候補になった中学1年生の頃は、合宿のための交通費や宿泊費も全て自己負担でした。今は交通費の一部を支援してもらえますなど取り巻く環境は少しずつ



# 特集

Special

世界市民を育む、学びがある。

つ変わってしまいましたが、まだまだなので、自分たちがもっとデフサッカーやデフリンピックを広めていかなければと思っています。

競技人口を増やしていけないといけないし、世界レベルの大会をいつか日本で開催したいという気持ちもあります。最終的には、デフサッカーやデフリンピックを通して一人でも多くの人に聴覚障害のことを知ってもらいたいと思っています。

**大竹** 具体的な目標は。

**宮田** 4年後のデフリンピックでメダルを取ることです。前は試合に出られず、今年もチームが出場できず、いずれも悔しい気持ちがあります。また、最近はずっとサルと掛け持ちしている選手が多いので、2年後にあるフットサルの大会でもメダルが取れるように頑張りたいです。

**大竹** 障がいがあるからスポーツはできないと思っている人もいます。そういう方にメッセージをお願いします。

**宮田** 以前は、耳が聞こえないことに「なんで私だけこうなんだろう」と思う自分が

て、そんな自分自身が嫌いでした。でも、デフサッカーで同じような立場の先輩が前向きに頑張っている姿を見て、こういう人になれたらいいなと思うようになりました。多田さんほどじゃないですが、結構ポジティブに、前向きになりましたし、自信も付きました。今は自分が嫌じゃありません。

## 後輩の頑張りを見習って先輩としてサポートできる幸せ

**大竹** 最後に、皆さんに質問です。何をしている時が一番幸せですか。どんな瞬間に、「ああ、幸せだなあ」「満たされたな」と感じますか。

**多田** 一番は陸上をしている時、試合している時です。そして寝ることが大好きなので、寝ている時も幸せです。あと、僕は大会が続くことが多いのですが、一生懸命練習を積んでそれぞれの試合に挑み、連戦後の疲れが残るオフに陸上仲間とUSJに行ったりして遊ぶ。それが楽しく幸せなひとときです。

**宮田** サッカーをしている時ですね。特に味方とうまくコ

ミニケーションが取れ、連携プレーが成功した時には、つながっているなど感じるができます。もう一つは、食べるのが大好きなので、おいしいものを食べている時が幸せです。



**大竹** 日々のご飯をおいしいと思っ

自分のことを幸せだと思っ

る感覚が高いと私の研究でも出ています。まさにそれを裏付けてくださっていますね。

**林** 私自身が関学出身で今の学生は後輩に当たりますので、後輩を指導できていることが幸せですし、さらに試合で勝ってくれるとその瞬間は幸せですよ。もしも関学じゃなかったら陸上部のコーチをし



商学部2年生 宮田 夏実さん

るんだなということをするごく感じました。苦労したり、いろんな思いを抱えながらも頑張っているお二人を大切に守っている仲間がたくさんいる。結果や成果を自分のこと以上に喜んでくださる存在が大勢いて、そのつながり

人生の中で大切な一つのも

てないかもしれません。今こうしてやっているのは、後輩が頑張っているのを先輩としてサポートしたいという思い、それが幸せです。自分が競技をやっていた時よりも、見てい

**大竹** 今日のお話で、お二人

のを自分で見つけ、それに全力で打ち込むだけの力と強さを持ち、まさに輝いていらっしゃるお二人に、関学全体が、もっと言えば日本中、世界

がたくさんの人とつながって

兵庫県伊丹市出身。サッカー部女子チーム所属。デフサッカー女子チーム日本代表。第2回世界ろう者サッカー選手権大会(トルコ)、第22回夏季デフリンピック競技大会ソフィア2013(ブルガリア)で日本代表。

# 1 業界・企業・職種研究

## 業界・企業・職種研究をする目的

- 1.世の中にどのような業界があるのか全体像をつかみ、特に知らない業界についての理解を深める。
- 2.それぞれの業界の事業内容や求める人物像などを理解することで、自分の特徴・価値観と合う業界を見つける。
- 3.志望動機の掘り下げを行う。
- 4.志望理由を明確にする。

就職活動解禁までは時間がありますが、ぜひ今のうちから業界・職種に関する幅広い知識を得た上で、将来の進路について考えましょう。キャリアセンターでは、今後以下のようなセミナーを実施します。ぜひ参加してください。

## 業界研究のワザセミナー

業界を見る視野の広げ方や各業界の特色・ビジネスモデルなどについてお話しいたします。今後、志望業界・職種を考えていくに当たって、大変貴重な情報収集の機会です。この時期に業界研究についての理解を深めておくことで、就職活動をスムーズに進めることができます。

|       |                      |                 |
|-------|----------------------|-----------------|
| 西宮上ケ原 | 11月10日(金)18:30~20:00 | 中央講堂(125周年記念講堂) |
| 神戸三田  | 11月9日(木)16:55~18:25  | Ⅵ号館101教室        |

## 業界研究セミナー

業界ごとに複数の企業を招き、それぞれの業界で各企業がどのような関わり方をしているか学ぶことができます。業界研究の第1歩として大変貴重な機会です。第2回キャリアガイダンスで配付した「就職サポートプログラムフリーフレット」に詳細なスケジュールを掲載しています。キャリアガイダンスに出席していない学生はキャリアセンターにお問い合わせください。

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 西宮上ケ原 | 11月14日(火)~12月13日(水) |
| 神戸三田  | 11月15日(水)~12月14日(木) |

## 官庁・自治体による公務研究セミナー

国や地方自治体などで実際に働いている公務員の方々に、業務内容ややりがいなどについてお話しいたします。毎年関学生が多く受験する官庁・自治体をお招きして開催しますので、公務員に興味がある人は参加しましょう。

|                   |
|-------------------|
| 西宮上ケ原             |
| 11月・12月・2月に随時開催予定 |

# 2 履歴書・自己紹介・エントリーシート作成

## 個人面談

事前予約制で1日1回40分間、経験豊富なキャリア・アドバイザーが1対1で相談に応えます。年内は特に履歴書・自己紹介書の完成を目的として面談を実施します。その他、就職活動に関する相談はカウンターでも受け付けています。

### 日程・場所

|       |            |
|-------|------------|
| 西宮上ケ原 | 10月10日(火)~ |
| 神戸三田  |            |
| 西宮聖和  | 11月7日(火)~  |

### 予約方法

教学Webサービス「キャリア」タブ内「KGキャリアナビ」から

※事前予約制。面談当日7日前から予約可。

や強みを生かせる企業や自分の夢を実現できる仕事を探してみよう。

関西学院大学には年間を通じて約1万件の求人票が届いています。今年は昨年に引き続き企業の採用意欲が高く、現時点でも優良企業からの求人が多数届いています。採用活

動を卒業前の3月まで継続する企業もあり、実際に毎年多くの先輩たちが卒業前に内定を得ています。「関学生を採用したい」という企業が数多くありますので、「KGキャリアナビ」で新着求人を随時確認してください。個人面談を有効活用しながら、決して諦めずに活動を進めていきましょう！

教学Webサービス「キャリア」タブ内「KGキャリアナビ」、またはキャリアセンターで確認してください。

## 就職の窓

# 就職サポートプログラムを有効に活用して計画的な準備・対策を！

11月から、3年生とM1年生を対象に「業界研究セミナー」や、面接対策に関する「キャリアガイダンス」など、キャリアセンター主催の就職サポートプログラムを実施します。また、キャリアアドバイザーと1対1で行う個人面談は10月から実施しています。就職活動はまだ先のことと思わず、今から計画的に準備を進めていくことが大切です。企業の広報活動やエントリーなどが始まる2018年3月の本格解禁に向け、各プログラムを活用しながら対策していきましょう！



## シューカツに勝つ 先輩の就職活動



アストラゼネカ株式会社  
田中 梨菜子さん  
(2016年商学部卒)

私は現在、製薬会社でMRとして「クスリ」の営業をしています。自社の薬を患者さんの元に届けるため、医師に対して処方提案を行うことが主な業務です。自分よりも自身の扱う製品であるクスリに関する専門的知識の多い相手に対して営業活動を行うことは非常に難しいですが、日々やりがいを感じています。

今回は、これから就職活動を迎える皆さんに、同窓生としてアドバイスを二つさせていただきます。

### 1. 広く業界を見る。

きっと皆さんには、憧れる業界や、逆に自身の働く姿がイメージできない業界があるのではないのでしょうか。憧れる業界の企業説明会には、もちろん参加されるでしょうが、そうでない業界の企業説明会については、足が遠くになってしまうかもしれません。ぜひ、業界にとらわれず企業説明会に参加してください。「なぜ志望する業界で働きたいのか」がより明確になるはずです。ビジョンが明確な人の話は道筋が立っており、発言にも非常に説得力がありますので、面接にも生きてくるはずです。

### 2. 「他人が見ている自分」を知る。

「他己分析」、よく耳にしますよね。ジョハリの窓を皆さんはご存じでしょうか。自己理解のズレをなくす手法ですが、これに他己分析は非常に役に立ちます。「本当の自分はこんなじゃないのに…」と他人から見た自分がかかりすることもありますが、それも本当のあなたです。エントリーシート作成時に「強み」「弱み」は他人の方が知っているんだなと感じた記憶があります。自分のことを完全に理解している人なんかいないと思いますが、自分をより理解している人は、前述と重複しますが、発言に説得力が出てきます。それに、友人や先輩・後輩等といった他己分析に協力してくれる人が多くいる大学時代は大変貴重です。社会に出るとなかなかそういう機会は持てません。ぜひ、この機会を活用してください。

最後になりましたが、同窓生として皆さんの就職活動がうまくいくことを祈っています。頑張ってください！

## 3 筆記試験対策

筆記試験の合格ラインに届かない場合は、面接に参加することもできません。皆さんが時間をかけて対策すれば突破できるレベルです。年が明けると就職活動は非常に忙しくなり、筆記試験対策に取り組む「時間と心の余裕」はなくなります。筆記試験対策は年内をめどに終わらせましょう。

### SMART SPI

SMART SPIとは、筆記試験対策学習教材です。関学生であれば無料で利用できます。関学生の多くがエントリーする企業が導入している筆記試験の概要解説・演習問題に加え、さまざまな種類の模擬試験を受験することができます。

#### SMART SPI…利用方法

- 1…教学Webサービス「キャリア」タブ内「KGキャリアナビ」から「筆記試験対策」をクリック
- 2…「パスワード申請」をクリック（初回のみ：パスワード申請が必要）。パスワード申請の画面に遷移するので、表示される手順でユーザーIDとパスワードを取得する。
- 3…「LOGIN→筆記試験対策はこちら!」をクリックし、画面の案内に従いログインする。

※「SMART SPI」のID・パスワードは教学Webへ入るためのID・パスワードとは異なります。

## 4 面接対策

採用選考プロセスにおいて企業が最も重要視しているのが面接試験です。基本的なマナーを学ぶだけでなく、さまざまな面接形式を実際に体験し、練習を重ねておきましょう。

### 第3回キャリアガイダンス「面接対策と企業研究 ～採用担当者の視点を知ろう～」編

採用選考で最も大切な「面接」。採用担当者が求めていることを知れば、面接で伝えるポイントが分かります！大手企業の採用担当者をお招きし、面接試験における評価項目や求める人材などについて説明いただけます。

#### 文系

|       |                                      |                         |
|-------|--------------------------------------|-------------------------|
| 西宮上ケ原 | 11月28日(火)15:20～16:50                 | 中央講堂<br>(125周年<br>記念講堂) |
|       | 11月29日(水)15:30～17:00/<br>17:20～18:50 |                         |

|      |                      |               |
|------|----------------------|---------------|
| 神戸三田 | 11月28日(火)18:35～20:05 | VI号館<br>101教室 |
|------|----------------------|---------------|

#### 理工系

|      |                      |               |
|------|----------------------|---------------|
| 神戸三田 | 11月13日(月)18:35～20:15 | VI号館<br>101教室 |
|------|----------------------|---------------|

## 面接トレーニング

### (マナー講座、集団面接、グループディスカッション)

就職活動で自分を最もPRできるのが面接試験です。実際に体験し、講師のフィードバックを受けることにより、課題を把握し、選考試験までに克服しておきましょう。

#### 日程

12月4日(月)～12月20日(水)

#### 場所

西宮上ケ原、神戸三田

#### 予約方法

教学Webサービス「キャリア」タブ内「KGキャリアナビ」から

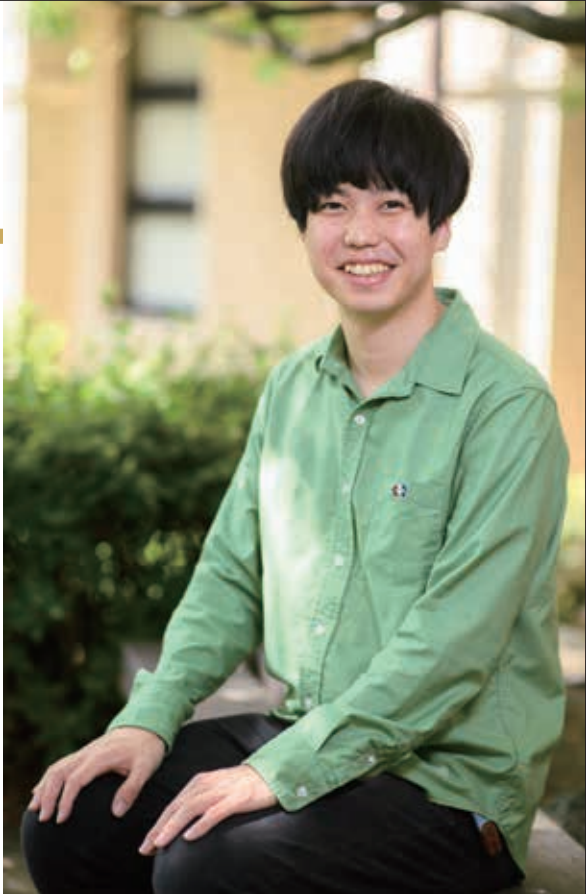
※事前予約制。11月30日(金)10:00予約開始(以降、面談当日7日前から予約可)。  
※開催日程・教室、予約方法など詳細は、教学Webサービス内「KGキャリアナビ」で確認してください。

## 就職活動を 続けている 4年生・ M2年生へ

**現** 在もキャリアセンターには、4年生・M2年生を対象とした求人多数届いています。第一志望の企業から内定を得ることができず就職活動への意欲が下がってしまった人もいます。しかし、不合格を契機にどのような仕事したいのかを改めて問い直す機会でもあります。自分の特徴

※各プログラムの時間・場所など詳細については、

## ダークツーリズムをテーマに発表 観光学術学会で奨励賞



わたがへ  
**渡壁晃**さん

社会学部4年生

### 観

光学の学術的發展と普及を  
図る観光学術学会の第6回  
大会(7月1日)で、学部学生発表奨  
励賞(優秀作品)を受賞した。「評価さ  
れてうれしい」と笑顔を見せる。

研究テーマは「ダークツーリズム論の  
課題と可能性」。人類の死や悲しみを  
対象にした観光「ダークツーリズム」に  
注目し、日本の既存研究を外国と比  
較した。日本では研究対象が災害と戦  
争に限定されることが多いが、外国では  
スラムや奴隷なども対象になることを  
紹介し、新たな視点を示した。

研究を始めたきっかけは、広島での  
平和学習や東日本大震災の義援金集  
めを行ったことだった。「記憶と向き合  
いながら復興することの難しさを感じ、

観光面で解決策があるのではと考えま  
した。だが、研究は困難の連続だった。  
英語やドイツ語など外国語の文献や  
資料から事例を集め、理論も分析した。  
大会では、学会に所属する大学教員

を前に、ポスター発表をした。日本では  
認知度の低い事例を説明し、「新たな  
事例を知ることができた」などと研究  
者の反響を呼んだ。同時にアドバイス  
も受け、「研究対象をさまざまな角度  
から考える重要性を学んだ」と成長を  
感じた。

卒業後は、大学院で研究を続ける予  
定だ。「こつこつ取り組んだ成果が受賞  
につながりました。今後も一つひとつ地  
道に研究を続けていきたい」と目を輝  
かせる。

勉学に、スポーツに、趣味に一。  
さまざまな分野で一生涯懸命に頑張るKGビープル。  
きらきらと輝く横顔を紹介する。

## 初めての海外での大会で初優勝 ヨ-ヨ-の魅力を伝えたい

### 米

国カリフォルニア州のサンノゼ  
で6月に開かれたヨ-ヨ-の  
大会「2017 Bay Area Classic  
Yo-yo Contest」(National Yo-yo  
League主催)の1A部門で優勝し  
た。「ひもにつながった一つのヨ-ヨ-を  
使う一般的なスタイルの部門で、競技  
人口が最も多い。国内外を通じて初め  
ての優勝にとてもうれしかった。海外  
での大会は初めてでしたが、観客の乗  
りが良く、歓声も大きかったので気持  
ちよく演技できました」と振り返る。

ヨ-ヨ-を始めたのは小学6年生の  
時。「世界大会の動画をインターネッ  
トで見て憧れた」といい、何度も動画  
を見て技を研究し、練習を重ねた。高  
校生になると、月に2回ほど大阪や

神戸で開かれている練習会に参加す  
るようになり、動きを確認するために  
動画も撮影するなど、他の競技者と  
技を磨き合った。大会での演技は3分  
間ほどだが、大会前にはその演技を何  
度も繰り返して練習するため、練習時  
間が一日5時間を超えることもある。

「ミスを減らしていけば結果は付い  
てくる。卒業までにアジアや世界で大  
きなタイトルを取りたい」と情熱を燃  
やす。8月にアイスランドで開かれた  
世界大会では5位入賞と、着実に力  
を付けている。普及活動にも力を入  
れており、地域のイベントなどにも参加  
する。ヨ-ヨ-を通じてたくさんの人  
とつながりができました。これからも  
魅力を伝えていきたい」と笑顔で話す。

にしき  
**西峪有輝**さん

経済学部1年生





## 根気強い観察・分析により 初の国際学会で優秀学生ポスター賞



矢野 菜花さん

理工学研究科M1年生

7 月にフランスで行われた  
国際学会「28th Inter-

national Conference on  
Photochemistry (IOPD

2017)で、優秀学生ポスター賞を  
受賞した。受賞者に自分の名前が呼  
ばれてとても驚いた」と笑顔を見せる。

研究テーマは「単一量子ドットの発  
光光子統計と励起光パルス幅の相  
関」。単一量子ドットに当てると一発当  
たりのレーザー光の時間幅を変える  
ことで光子の密度を変え、量子ドット  
の光り方の違いを調べる。レーザー光  
の時間幅が長いほど、発光する光子  
の数が多いことを突き止めた。

実験は、目には見えない光子や量  
子ドットを測定するため、顕微鏡の細

かい設定が不可欠となる。わずかな  
誤差で失敗することも多かったが根  
気強く観察を続けた。約7000個の  
データを集め、分析を繰り返した。

ICP 2017は初めての国際  
学会となった。慣れない英語での発表  
もこなし、世界中の研究者と意見を  
交わした。「同世代の研究者も多く、  
たくさん刺激を受けた。私の研究は  
伝わりにくい基礎研究だけど、評価さ  
れてうれしかったし、励みになった」と  
充実した7日間を過ごした。

現在はこの研究と並行して、スイッ  
チング素子の応用が期待できる光  
スイッチングの研究も行う。「二つの  
研究を深め、さらに成果を出していき  
たい」と意気込む。

## ひと人ひと

## 南三陸の海を思い出し演奏 国際コンクールで1位に輝く



谷口 博章さん

1994年法学部卒  
西宮市役所市民協働推進課長

8

月に米国ワシントンで開かれた  
「第15回ワシントン国際ピアノ  
アーティストコンクール」で1位に輝いた。  
東日本大震災以降、被災した宮城県南  
三陸町で支援活動を続けており、現地で  
のミニコンサートのほか、パリに出掛けて

チャリティコンサートも開いてきた。「南  
三陸町のみんなを元気にするコースに  
なってくれたらうれしいです」と喜んだ。

西宮市役所に勤務しながら練習を重  
ね、国内外のコンクールで多くの賞を受  
賞してきた。パリの国際コンクールには過  
去4度挑戦したが、2005年の3位  
入賞が最高だった。「自分の演奏スタイル  
はコンクール向きではない」と二度は国際  
コンクールで1位になる夢を諦めた。しか  
し、演奏の腕前が衰え始めてきたことに

危機感を覚えて奮起。「やり残した気持  
ちが大きかったし、年齢的にも最後のチャ  
ンス」と、国際コンクールへの再挑戦を決  
めた。仕事と子育ての合間を縫って毎日  
1時間半、週末は一日に5時間ほど練習  
した。

ファイナルでは、序盤にミスタッチをし  
て気持ちが悪入りかけたが、南三陸の穏  
やかで優しい海を思い出すと、心を落ち  
着けて演奏を続けることができた。「今ま  
で悔し涙の方が多かったけれど、その経験  
からいろいろな状況に対処できるように  
なりました」と振り返る。今後については、  
「まずは4月のワシントンでの優勝者コ  
ンサートを成功させたい。そして、南三陸  
町の支援のように、自分の演奏で役に立  
てる活動が続けたい」と話している。



神学部  
加納和寛ゼミ

## 近代ドイツの神学思想を研究 現代の課題解決のヒントを探る

**キ**リスト教の思想が専門で、特に19世紀から20世紀のドイツにおける神学思想について研究しています。

現在、日本を含む先進国では、伝統的なキリスト教は衰退傾向にあります。例えば、ヨーロッパの国々はどこもキリスト教国といわれていますが、ドイツではほぼ毎週熱心に教会に行く人の数は全体の約3%しかいません。百年以上前から産業革命の成功やドイツ統一、社会的・経済的・政治的变化など、さまざまな理由から人々は急速に教会から離れていき、神学者たちはキリスト教の価値を新しい形で社会に提示する必要に迫られました。私は、当時の神学者たちがこの課題を解決するために、どのような議論をしていたのかに注目し、その議論が現代の諸課題を解決するヒントになるのではと考えています。

また、2011年にドイツへ留学した時に、近所のキリスト教会が、ソ連崩壊後にドイツへ移住してきたユダヤ人のためにユダヤ教の施設を作ったことを知り、宗教間の対話にも関心を持ち始めました。そのこともあり、私のゼミではキリスト教の教えを説くだけでなく、その教えから出発して、社会で生きていく中でどのようなつながりをつくることができるのか、どのような活動ができるのかについても考えています。学生には、「多角的視点を持つ」ということを大切にしてほしいと伝えています。神学で扱う物



加納 和寛 准教授

事は、必ずしも正解が一つというわけではありません。それは神とという抽象的存在を重要な対象としていたのだからですが、正解が一つではないのは神学に限らず、家族の在り方、職業選択、人との交流の仕方、人生の意味なども同じではないでしょうか。さまざまな視点から考えることが、今後の仕事や人間関係の構築に役立つと思えます。

## キリスト教と現代との恋愛観を比較研究



山田 なつみさん  
神学部4年生

「結婚をテーマに研究をしています。友人から恋愛相談を受けたとき、悩みにうまく答えられなかったことがきっかけでした。私が答えることができなかつた部分に対して、神様はどのような答えを持っているのだろうかという興味を持ち、研究しようと思いました。まずは、アレクサンダーロマンの『いなづけ』といった宗教や恋愛について書かれた本や聖書を読むことで、キリスト教における恋愛観と現代における恋愛観を比較し、両者に共通する考えなどがあるのかを突き止めたかと考えています。『愛は人生の大きなテーマの一つだと思つて、それに対してキリスト教が一つの答えを持つてほしい』という期待を抱いています。

加納先生は、「この視点から物事を判断せず、多角的視点を持つことの大切さを常々言っておられます。研究テーマも「これ」と決められることはなく、自由に研究ができています。来年から社会人になりますが、ゼミでの学びを生かして活躍していきたいです。





理工学部物理学科  
加藤知研究室

## 皮膚の表面にある薄い脂質膜について その構造と水の抜け方との関係解明を

**私**

の専門分野は生物物理です。生物材料を使って物理学的研究をしています。使っている材料は脂質の膜。皮膚の表面には角層と呼ばれる約10分の薄い膜があり、脂質がたくさん詰まっています。脂質膜は体内の水分を逃がさない役割を持っているため、私たち人間は陸上で生きることができません。私はこの重要な役割を担っている脂質膜の構造や水分透過の仕組みを電子顕微鏡やエックス線を用いて解明することに取り組んでいます。

大学だけではなく、化粧品会社とも共同で研究を進めています。例えば、荒れ肌やアトピーの人の皮膚では水が抜けやすくなっていることが知られています。これを改善するために、化粧品会社の研究者が日々努力をされています。脂質の膜の構造が水の抜け方に関係しているため、私たちの研究室ではこの膜の構造を調べ、水の抜け方との関係を評価しています。

また、直接人間の皮膚を使って研

究すると、試料入手が難しい上、莫大なコストがかかり、倫理的な問題も生じます。そこで私たちは、人の皮膚そのものではなく、角層に含まれているセラミドやコレステロールから角層のモデルとして使える人工膜を作製することにも注力しています。重要な生命活動の大半は脂質膜を介して行われていますので、膜の研究は生物研究のメインストリート

ともいえる重要な研究だと考えています。



加藤 知 教授

研究は「好きこそもの上手なれ」です。研究が好きな学生は必ず伸びます。関学生は真面目。真面目なことはいいことですが、良い意味で変わった学生がいてもいいと思います。学生には失敗を恐れず、突飛な発想力を持って、研究に取り組んでほしいです。

### より人間の皮膚に近い人工膜の作製を



赤下部 奈月さん  
理工学研究科M1年生

生物物理学に興味を持っていたので、加藤研究室を選択しました。人間の皮膚をモデル化した人工膜を作製する研究を進めています。人間の皮膚がバリアの働きを持っていることは分かっていますが、どういう仕組みでこの働きがなされているかは分かっていません。そこで皮膚の構造を簡単に評価できる人工的なモデルを使って研究するために、より人の皮膚に近い人工膜を作製できるように取り組んでいます。将来はこの人工膜を使って薬品の浸透性などを調べたいと考えています。世界最高性能を誇る大型放射光施設「SPring-8」で実験できるのも魅力の一つ。関西学院大学専用のビームラインもあり、世界レベルの施設で取ったデータを解析することに喜びを感じています。加藤先生は学生の自主性を重んじてくれる指導者です。いつも笑顔なので、研究で困った時なども相談しやすい雰囲気です。卒業後は、先生に学んだことや現在の研究を生かせる仕事に就きたいです。

このコーナーでは、KGB 総部放送局が記事と映像で、部活動に励む関学生のイキイキとした姿をお届けします!

# 突撃! KG CLUB *by KGB*

## （ 体育会 ワンダーフォーゲル部 ）

60年以上の歴史を持つワンダーフォーゲル部。本年度は1年生を含めた男子25人女子8人の総勢33人で活動しています。夏休みなどの長期休みに山登りや沢登りからスキーまで幅広い活動を行っており、オールシーズン山の魅力を体感しています。また、関学生なら誰でも利用することができる長野県の関西学院大学戸隠山小屋はワンダーフォーゲル部OBによって建てられ、山小屋の管理も部員が行っています。

### 練習日

月曜、木曜の放課後(全体トレーニング)、週4回の空きコマ(個人トレーニング)

### 活動場所

関学周辺(ランニング)、トレセン(筋トレ)、甲山(歩荷〈荷物を背負ってのトレーニング〉)

### ワンダーフォーゲルの魅力

山には危険が付きもの。そのため、けがをすることも少なくありません。しかし、困難を乗り越えた先に望むことのできる絶景や自然と一体になれることこそワンダーフォーゲルの魅力ではないでしょうか。





## インタビュー

### ▶主務

森本 凌太郎さん(経済学部3年生)

### ▶副主務

田村 一正さん(理工学部3年生)

### ▶山小屋管理人

小林 拓末さん(法学部3年生)



### Q.ワンゲルで良かったことは?

山を通したいろいろな活動ができるのですごく楽しい。山に登ることに飽きることはないです。登山は尾根を登りますが、谷を登る沢登りが面白いです。

### Q.上下関係はどんな感じ?

先輩後輩関係なく仲は良いです。厳しくはないですが、山では後輩の命を預かっているのでメリハリをつけて接しています。

### Q.最近登った山は?

飯豊連峰に7泊8日で行き、人の手が入っていない道なき道を歩いて登りました。お風呂にはもちろん入れず、原始的な登山でしたね(笑)。



### Q.家族の人は心配されますよね…

確実に心配されています。入りそうに思えた新入生でも、親の反対で入部を諦めてしまう子も多いです。

### Q.怖い時はありますか?

ホンマに危ないと思った時が何回もあります。ホワイトアウト(吹雪で視界が見えなくなる)で周りが見えない時は本当に怖かったです。でも楽しいので、怖さで辞めなくなることはないですね。

### Q.登山の成功率はどれくらいですか?

登山は天気やけがなどの条件に大きく左右されるので、登っている途中で下山することも少なくないですね。成功にはこだわりますが、最善を尽くすことを第一に考えて山に登っています。



## KGB総部放送局

関西学院大学で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています!興味のある人はTwitter、ホームページなどをご覧ください!

HP→<http://www.everyday-kgb.com>  
Facebook→<https://m.facebook.com/KGBbroadcast>  
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>





## 目的意識を持ち 自ら考え 行動することで 成長できる

2月に約2週間、カナダのトロントにあるYAMAHA CANADA MUSICでインターンシップに参加しました。将来はグローバルに働きたいと何となく思っていたのですが、実際に海外で働く経験を積んで自分の気持ちを確認しようと思参加を決めました。「初めての留学」ということがモチベーションにもなり、不安と期待を持って出発しました。



↑ベアの学生と食事(右端が三好さん)

私が企業から与えられた仕事は、一つの楽器を選んで、その楽器についての強みと弱みを競合他社と比較・整理して、課題に対する解決策をプレゼンするというものでした。一般客を装って楽器店に行き、実際に楽器に触れながら各社の楽器の特徴や売れ行きに関して店員から話を聞くなど、商品を買うまでの消費者の気持ちを分析しました。私が選んだ電子ドラムは、売り上げもネット上の評価も他社の方が高いと分かりました。他社のドラムの方が、たいたときの打感がよりはっきりと感じられ、それが消費者から高い評価を受けていました。また、自社のドラムは「本物に近い打感」というコンセプトを持っていながら、それが世間に浸透していないという問題も確認できました。

最終日のプレゼンでは、しっかりと分析できたという自信から、自分の考えを堂々と話しました。これは、留学初日には想像できなかった自分の姿で、成長を感じました。



↑最終日のプレゼンの様子

今回の経験から、「留学は行くだけでは駄目だ」と思いました。そこで何をして、何を学びたいのかという目的意識を持って、自ら考えて行動することで成長できると思います。今は、海外で活躍したいという思いが強くなりました。将来はグローバルに活躍できる会計士になりたいと考えています。

CCC Field Study in Canadian Business  
三好 宏樹さん 総合政策学部4年生  
派遣国 ▼ カナダ



北アメリカ大陸



ロバーツ リア ジーン  
ROBERTS LEA JEAN さん  
(サンフランシスコ州立大学 交換留学)  
米国出身



## — 関西学院大学を選んだ理由は。

留学先を探すに当たって私が最も重視したことの一つは、障がいを持った学生が必要とするサポートを大学が十分に提供してくれるかどうかでした。私は、周りに人がいる環境では集中力が散漫になってしまうため、例えばテストを受けるときは別室での受験許可をもらうなどの必要がありました。しかし、私に必要なサポートを提供してくれる大学を見つけることは難しく、結局、二つの大学に絞りました。そのうちの一つが関学でした。関学で学ぶことはとても興味深く感じましたし、私の質問に対する返答も早く、留学することを決めました。

## — 関西地域について知っていたことはありましたか。

サンフランシスコ州立大学では、日本人学生会に所属して日本文化を広めたり、現地学生と日本人学生の親睦を深めたりするような活動をしていたので、関西から来た日本人学生の知り合いはいました。しかし、過去に日本に来た時は、ほとんどの時間を東京で過ごしていたため、関西について知っていることは少なく、神戸や大阪がどのような所なのか気になっていました。実際に来てみると、とても気に入りました。関西の人はとても温かいですし、私にも積極的に話しかけてくれます。

## — ホストファミリーとの生活はどうですか。

グレートです！このホストファミリーと出会えたことは本当にうれしいです。分からないことがあったときや困ったときはいつも助けてくれますし、嫌なことがあった日も家に帰れば本当の家族のように感じるができます。これ以上のつながりはないと思うほど、すてきなホストファミリーです。

## ホストファミリーや 大学職員の サポートに感謝

↓ホストファミリー、留学生の友人と奈良へ旅行



## — 授業や学校生活はどうですか。

授業はとても楽しいですし、米国で受けていた授業よりも分かりやすいというのが正直なところでした。一度で理解できなくても、もう一度丁寧に教えてくれるので助かります。国際連携機構の職員の方も、いつも親切にしてくれて、困ったことがあると助けてくれます。その一つの例がテストです。初めはみんなと同じ教室で受けようとしたのですが、やはり気が散ってしまいうまくいきませんでした。そこで国際連携機構に相談すると、数日後に別室でテストを受けられるよう手配してくれました。本当に感謝しています。キャンパスの美しさにも驚きました。大学の中に池があったり、そこでカモの赤ちゃんが見られたりするのはいいですね。池はお気に入りの場所なので、よく周りを散歩しています。

## — 最後に好きな日本語を教えてください。



適切かどうか分かりませんが、「面倒臭い」が私のお気に入りの言葉です(笑)。何かやらないといけないことがあるときにぴったりの言葉ですね。



# 数字でみる 関学

偏差値、教育内容、キャンパス...今の関学生はどのような理由を重視して、関西学院大学への入学を決めたのでしょうか。学生たち入学の決め手を紹介します。

## 関西学院大学に 入学を決めた 最も重視した理由



※高等教育推進センターでは、第19回カレッジ・コミュニティ調査を2016年6～7月に実施し、報告書を17年3月に発行しました。報告書の「関西学院大学に入学を決めた最も重視した理由」を参考に紹介します。

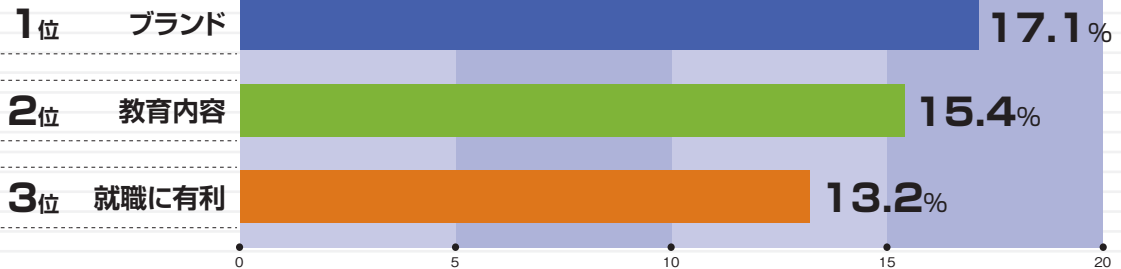


あなたが関西学院大学に入学を決める際、最も重視した理由はなんですか。



### 結果

- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 偏差値   | 7. ブランド   |
| 2. 受験科目  | 8. キャンパス  |
| 3. 教育内容  | 9. 校風     |
| 4. 教員    | 10. 通学が容易 |
| 5. 資格取得  | 11. 周囲の薦め |
| 6. 就職に有利 | 12. その他   |



最も回答が多かったのは「ブランド」でした。関西学院大学というブランドで入学を決めた学生が多いようです。3位の「就職に有利」は2014年の調査時の5位(9.1%)から大きく上昇。2～4年生では、「ブランド」と答えた学生が最も多かったのに対し、1年生は「就職に有利」が17.4%で最も多い結果となりました。就職に強い関学というイメージが浸透してきたのではないかと推測できます。



### 4位以下の 結果

- |    |       |     |       |
|----|-------|-----|-------|
| 4位 | 校風    | 8位  | その他   |
| 5位 | 偏差値   | 9位  | 通学が容易 |
| 6位 | 周囲の薦め | 10位 | 資格取得  |
| 7位 | キャンパス | 11位 | 受験科目  |
|    |       | 12位 | 教員    |



## 片山象三・西脇市長が講演 市のまちづくりを語る

総合政策学部が開講する「都市財政論(西脇市都市経営フィールドワーク)」で6月9日、兵庫県西脇市の片山象三市長が登壇し、約250人の学生が参加しました。昨年に続き、2回目です。

テーマは「市長が語る～西脇市のまちづくり～」。

片山市長は、自らの半生を振り返りつつ、西脇市のまちづくりの現状をはじめ、今後の展望や課題、市長になったきっかけなどを話しました。終盤には「諦めなければ失敗でない」「いろいろな人と協力して仕事を進めることが、大きなことを進める上で重要」などと学生に訴えました。

学生は熱心に耳を傾け、講演終了後には市長へ個別に話を聞くために行列ができました。地方の活性化の重要性、ビジョンを持ってまちづくりを進めるこ



との意義、諦めず工夫を重ねることなど多くを学びました。

関西学院大学と西脇市は、活力ある地域社会の形成と、大学の教育、研究に寄与することを目的として、2016年3月に包括的な連携協定を締結しました。その一環として、2016年度から総合政策学部の開講科目「都市財政論」で連携授業を実施しています。今回の講演は、連携授業の科目である「都市財政論」と、同時限に実施している「居住環境論」の合同授業という位置付けで実施しました。

## 川西孝男研究員が 関西学院創設に関する研究論文を発表

関西学院大学が創設された世界的・現代的意義に関する研究論文がイタリア・ローマの国際学会誌『Academic Journal of Interdisciplinary Studies』(Vol6, No1, 2017、編集: MCSER: Mediterranean Center of Social and Educational Research)に掲載されました。

本論文 Wesley in Oxford and the Legend of Holy Grail's Knight: The Study about the Root of Methodism to the World, and the Foundation of Kwansei-Gakuin in Japan は、総合政策研究科の川西孝男研究員(学術博士)によるもの。昨年12月10日にイギリス・ロンドンで行われた国際学会「the 6th ICHSS」(6th International Conference on Humanities and Social Sciences、主催 MCSER、約180人が研究発表)のポスター発表での報告内容 Wesley in Oxford and the Legend of Holy Grail's Knight を英字論文として提出し、製本およびホームページ上で公表されました。

川西さんは、本論文およびポスター発表を通じて、オックスフォード大学で育まれた J.ウェスレーのメソジズムと、これを継承発展させた関西学院の創立者である W.R.ランバスの信仰覚醒運動といえる「リバイバル」に注目。2人がキリスト教神秘主義の系譜を受け継いでおり、これらが関西学院にもたらされたことを例証しました。

川西さんは7月、本論文ならびにポスター発表で主催者の MCSER から BEST PAPER AWARD と BEST POSTER PRESENTATION AWARD の両賞を受けました。

## 法学部1年生が集結! スピーチコンテストを開催

法学部1年生の代表者によるスピーチコンテストが7月3日、西宮上ヶ原キャンパスの中央講堂で開催されました。法学部の初年次必修科目「スタートアップ演習」の集大成として実施され、全クラスから選抜された14人が「私は今後法学部でこのように学んでいく」をテーマに2分のスピーチを披露し、その内容や伝え方を競いました。

代表14人は、約700人の観衆の前に緊張した様子でしたが、本番を迎えると全員が見事なスピーチを披露。「法律を通じて視野を広げる」「幅広い知識と経験を身に付けて公務員を目指す」「海外留学や国際ボランティアなどを行い世界に貢献できる力を身に付ける」など、目標や考えを自分の言葉で堂々と話しました。



審査委員長を務めた伊勢田道仁・法学部教授は「全員が見事なスピーチで終始聴き入りしました。誰がグランプリに選ばれてもおかしくない審査結果でした。これからの大学生活で話し方、伝え方を大切にすると同時に、確かな『中身』を身に付けてください」とメッセージを送りました。

スピーチコンテストの司会進行や運営は、全てラーニング・アシスタントの先輩学生らが行い、舞台の照明や音響にもこだわった演出を行いました。

## 16年続く教育学部生の通学ボランティア 小学生が感謝の会を開催

教育学部生が週3日、西宮市立上ヶ原小学校の子どものためにしている登校時の安全確保と見送りのボランティアに対して、同小学校の児童らによる感謝の会が7月14日、西宮聖和キャンパスで開かれました。

感謝の会では、児童の代表が「お兄さんとお姉さんのあいさつで、いつも気持ち良い朝のスタートを迎えられます。ありがとうございます」と感謝を伝え、お礼にメッセージカードを学生らに贈りました。

同ボランティア活動は2001年6月8日に発生した大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件に衝撃を受けた教育学部の藤木大三教授が、聖和大学(当時、09年に関西学院と合併)教育学部の学生たちに



呼び掛け、事件からちょうど1カ月たった7月8日に始まったものです。その後も新たに入学してきた学生に受け継がれ、関西学院大学教育学部となってからも途切れず16年以上続いています。

現在は藤木教授や学生たちの熱心な活動を見た地域の老人会やボランティアの皆さんにも共に参加いただき、地域社会活動へと広がりを見せ、世代を超えた交流も生まれています。





## 激論講義 in KSCでAIについて 文系と理系の教員が熱く議論

関西学院大学は7月5日、総合政策学部と理工学部の教員が明確な答えのないテーマについて議論する「激論講義 in KSC」を神戸三田キャンパスのアカデミックコモンズで



開催し、約200人の学生が集まりました。昨年2回開催し、3回目の今回は「AIの発展は社会に幸福をもたらすか?」がテーマ。巴波弘佳・理工学部教授をコーディネーターに、北村泰彦・理工学部教授と朴勝俊・総合政策学部教授が議論しました。

最初にそれぞれが「理系」的な観点、「文系」的な観点から、AIについて説明。北村教授が「AIの活用によって、より創造的な仕事ができるようになる」「科学技術の革新が、生活を豊かにする」など、AIの発達をもたらすポジティブな側面を語り、朴教授は「AIによって雇用が奪われ、格差拡大につながる」「AIが人類に敵対する危険性も考慮すべき」など、ネガティブな側

面を語りました。その後、参加者も巻き込んだ熱い対談を通して、AIをどのように進化させていくべきか、一人ひとりが多面的な視点を持って考えていくことの重要性を共有しました。

「激論講義 in KSC」は、新しいタイプのアクティブラーニングとして、関西学院大学で検討、企画されました。特徴は、参加者が各自のスマートフォンから送信したコメントがスクリーンに順次表示されていくシステムを用いることです。これにより、他の参加者の意見や疑問などをリアルタイムで全員が共有できるため、効率よく議論を進め、理解を深めていくことができます。このシステムは、巴波教授の研究室が開発しました。

## 尾崎幸洋・理工学部教授が ICNIRSフェローに

尾崎幸洋・理工学部教授が「International Council of Near-infrared Spectroscopy (ICNIRS) Fellow (Fellowship Award)」に選出されました。尾崎教授のNIR分光法の基礎研究、開発および応用への貢献が認められたものです。

フェロー授与式は6月12日、コペンハーゲンで開催されたICNIRS 2017で行われました。

ICNIRS Fellow Awardは、長期にわたりNIRの理論、応用、技術、産業、教育へ優れた貢献を行った研究者に与えられる賞で、2年に一度選出されます。



## 総合政策学部生が吉野工芸の里で 地域のシンボル水車を復活



総合政策学部が開講する総合政策課題研究A(白山麓実習)の履修生など7人が8月30日から9月4日、石川県白山市の「吉野工芸の里」にある長年使われてこなかった水車小屋を修復しました。

水車小屋は、約20年前に器具の不具合で作動を停止して以来の復活になりました。地域住民から「復活した水車を見たい」という声があり、学生たちの実習の原動力となりました。「水車小屋復活祭」は、地元の関係者や、白山麓実習に関わってきた卒業生も加わり、盛大に行われました。今後、白山麓吉野地域の活性化に役立てるために、水車小屋を多目的に活用するアイデアを提案していく予定です。

白山麓実習は、白山麓の現

地で行う地域貢献型の実習科目です。自らフィールドワークを企画・立案・実施するための能力を身に付けること、地域の課題を解決するため政策現場における総合的視点を身に付けることなどを目的に、産官民学それぞれの関係機関と協議を重ねます。これまでに「絶滅危惧植物であるオキナグサの保護活動(石川県白山自然保護センターなどとの協働)」など、さまざまなボランティア活動を通して地元住民との絆を深めてきました。公園センターでの地元産品を活用したソフトクリームの販売は、こうした絆から生まれた取り組みです。

現場に足を運んだ学生たちは、「大好きになった白山麓とお世話になった人たちに少しでも恩返しをしたい」との熱意を持って活動しています。

## 文科省の官民協働海外留学支援制度 第7期生に関学生10人が合格

文部科学省が実施している「官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～」の第7期生に関西学院大学から10人が選ばれました。

このプログラムは、グローバル人材育成を目的に2014年度から始まり、支援企業・団体からの支援や寄付を基に、官民が連携して学生の留学を支援するもの。



2020年までの7年間で約1万人の高校生、大学生を同プログラムの派遣留学生として海外に送り出す計画で、派遣される学生には奨学金が与えられるほか、事前・事後研修なども実施されます。



## 大学生と高校生が合宿形式で 開発援助や国際協力を学ぶ



総合政策学部は「国際公共政策」をテーマに、大学生と高校生と一緒に学ぶ課題解決型・セルフディベロップメント型の科目「総合政策トピックスA」を8月1日から5日まで神戸三田キャンパスなどで開講しました。国際公共政策の分野からケース・スタディを選択し、問題解決への関心、解決能力の基礎的な国際要素を身に付けることを目的に、大学生に加え、関西学院高校から6人が参加し、高大連携の一環にもなりました。

この科目は4泊5日の合宿形式で開かれ、受講生は毎日与えられる課題に、毎晩数時間かけて取り組みました。教室では、レポートやディスカッションなどの基礎講座、統計学の専門家によるデータ分析、ケース・スタディなど内容の濃いプログラムが行われました。ケース・スタディでは、元国連職員の村田俊一・総合政策学部教授が当時の実体験を交えて講義し、さまざまなエピソードを話しながら、明確な答えのない事例を受講生と考えました。

受講した大学生は「教科書では知ることのできない『リアル』な外交を知ることができた」「現場経験者の生の声はとても勉強になった。履修してよかった」などと話しました。

## 経済学部・栗田ゼミ生が小学校で出張授業 マダガスカルの子もたちとビデオでつなぐ

開発経済学を学ぶ栗田匡准教授の経済学部3年生のゼミ生が7月8日と10日、西宮市立段上西小学校と関西学院初等部で、小学生と一緒にマダガスカルや発展途上国について考え、国際交流をする授業を行いました。



授業では、最初にゼミ生がスライドを用いて、マダガスカルを中心に発展途上国の現状や課題を説明。児童らは、これまで知る機会が少なかったマダガスカルについて興味津々で、真剣に考えたり、質問したりとさまざまな表情を見せ、ゼミ生の問い掛けに元気いっぱい答えました。

その後、マダガスカルの子もたちと交換するビデオ撮影で

は、児童らは恥ずかしがりながらも、事前に考えてきた「マダガスカルについて気になること」を大きな声で話しました。

今回の出張授業は、ゼミ生が「マダガスカルの子もたちの多くは日本や世界のことを知る機会が非常に少ない状況。また日本の子もたちも、発展途上国といわれる国の現状を知る機会が十分でないと思う」と考えたことがきっかけです。ゼミ生が主体となって企画し、小学校と調整を重ね実現しました。

## 4番目の海外拠点をインドネシアのUKSWに開設

関西学院大学は8月18日、協定校であるサティア・ワチャナ・キリスト教大学(インドネシア・サラティガ市、以下UKSW)に、海外拠点“Kwansei Gakuin University Indonesia Liaison Office”を開設しました。関西学院大学の海外拠点は、カナダ・トロント、中国・吉林および蘇州に続き4件目の設置になります。

同日、開所式を行い、UKSWで同大学のJohn A. Titley学長と、神余隆博副学長が協定書に署名しました。この日は両大学交流40周年記念式典も行われ、インドネシア日本国大使館の中村亮公使、両大学の教職員、同窓、現役学生約30人が出席しました。本学とUKSWとの交流の歴史は、1977年の学生交流プログラ

ム「インドネシア交流セミナー」(EASE)の開始までさかのぼります。現在まで、両大学でEASEに参加した学生数は延べ1,000人を超えます。本学の拠点の開所式に先立って行われたEASE記念碑の設置式には、インドネシア・中部ジャワ州ガンジャル・ブラノ州知事も列席されました。



## 関学カプセル...35

利用している。1万2千人が個人の利用も可能で、毎年約等、一般の団体、個人の利用も可能で、毎年約1万2千人が利用している。



関西学院に学ぶ幼児から大学院生まで院内の利用者はもちろん、院外にも開かれた場として、キリスト教、学校幼稚園、青少年団体、企業研修等、一般の団体、個人の利用も可能で、毎年約1万2千人が利用している。

## 千刈キャンブ

自然の中で実践的な教育活動

「千刈キャンブ」は、自然や隣人との出会いを通してキリスト教主義教育を展開することを目指して1955年に開設された。以来学生キャンプリードアの働きを支えられてきた「Mastery for Service」を具現化するものとして各方面から評価され、多くの人に「関西学院らしさ」を伝えきえた。

1984年には、本格的な食堂、研修室浴室を備えたキャンブセンターが完成し、新キャンブと合わせて連年の利用が可能となり、名称も「千刈キャンブ」と改称された。

約8万平方メートルの里山の自然と約1500人宿泊可能な研修機能に加え、指導スタッフが駐在するなど、大学が保有する施設としては全国でもユニークな資源を持つ千刈キャンブ。時間に縛られない生活空間を共有することや「ミニプロジェクト」を深めることはもちろん、環境教育やリーダーシップトレーニングなど実践的な教育活動を展開することが可能となっている。



## 熊本地震の被災地でボランティア 6回目も益城町を中心に活動

関西学院大学の学生が9月8日から10日まで、熊本地震の被災地でボランティア活動を行いました。関西学院大学ヒューマン・サービス支援室が2016年度から実施しているもので、今回が6回目です。支援内容は、これまで同様、学生が過去の参加経験を踏まえながら議論を重ねて考えました。

期間中は、被害の大きかった益城町の三つの仮設住宅で活動。学生らは、水鉄砲やシャボン玉で子どもたちと一緒に遊び、スイカ割り、そうめん作り、茶話会、カラオケ大会など住民が交流できる機会をつくりました。活動を通じて被災者の方に寄り添うた

め、世間話をしたり、不安や悩みを聞いたり、積極的に交流も深めました。また、期間中はくまモンが活動場所を訪問。学生や被災者の方と交流し、全員から笑顔があふれました。

参加した学生は、「被災者の方から「来てくれてありがとう」「また来てね」と言ってもらえて、実際に行くことに意味があると感じた」「高齢者の方の地元トークに入って行くのが難しかった。次回はより多くの方に楽しんでもらえるよう、自分から積極的に話していけるようにしたい」などと話しました。学生による熊本地震ボランティアは今後も継続される予定です。



## KG★グルメ

### Toy Box (神戸三田キャンパス第一厚生棟)

#### 「サンポッポ」のパン

三田市内の人気店「サンポッポ」のパンが不定期で販売されています。定番のコロッケパンをはじめ、カレーサラダパン、ブルーベリーとクリームチーズのベグルサンドなど珍しいパンが全品税込み150円! ランチにはもちろん、デザートとしても味わえるおいしいパンが勢ぞろいです。(写真は焼きリンゴカスター)



## 今年も世界市民明石塾開講 高校生が未来の世界を考える



関西学院大学は8月8日、将来のグローバルリーダー育成を目的として、元国連事務次長の明石康・SGU招聘客員教授を塾長に、高校生対象の「関西学院世界市民明石塾」を西宮上ヶ原キャンパスで開講しました。昨年度から始まり2回目です。スーパーグローバルハイスクールを中心に、全国の高校から選ばれた20人が参加しました。

午前の基調講演で明石塾長は、岐路に立つ現在の世界情勢に触れ、「日本もグローバル化の中で国際競争力を伸ばす努力が必要」「自分が持った問いや課題意識を突き詰めて考える姿勢を身に付けてほしい」「自分のアイデンティティーとともに、他者のアイデンティティーも理解することが大切」などと話しました。その後の高校生との対話セッションでは「米国などが多国間協力へ

の方針を転換する中で、国連には将来の大戦を防ぐ力があるか」「EUからのイギリス離脱やドイツがけん引する現状、難民の課題をどう考えるか」など、多数の質問が寄せられました。高校生たちは明石塾長の話に熱心に聞き入っていました。

午後からは、元UNICEFカザフスタン事務所代表の久木田純・SGU招聘客員教授が講師を務め、「人類は22世紀を迎えられるか」をテーマにセッション1・2を行いました。セッション1では、UNICEFヨルダン事務所職員の三田みちる氏との中継セッション、グループディスカッション、発表などを通じて、21世紀の世界の現状と課題への理解を深めました。セッション2では、「どのような22世紀になって欲しいか」「自分たちに何ができるか」をテーマに議論し、各グループで発表しました。

## 北條賢・理工学部准教授らがアリが共生相手を 口移しで仲間に伝えることを解明

北條賢・理工学部准教授、林正幸・日本学術振興会特別研究員(琉球大学農学部所属)、野村昌史・千葉大学園芸学部准教授、辻瑞樹・琉球大学農学部教授の研究チームは、働きアリが、パートナーであるアブラムシ種がどれなのかを仲間のアリに伝えていることを明らかにしました。さらに、この情報伝達は働きアリ間での「口移し」による栄養交換行動の際に生じていることを突き止めました。この研究成果は、アリ社会の秩序だった集団行動の

メカニズムの一端を説明するものになります。

北條准教授は「今回の成果は単に「昆虫は思っていたよりも賢い」というだけでなく、動物のコミュニケーションや種間相互作用を理解する上でも重要な発見だと考えています」と話しました。本研究成果は、日本時間2017年8月30日に英国王立協会紀要 Proceedings of the Royal Society Bにオンライン掲載されました。

学院通信

関西学院中学部は7月から8月にかけて、岡山県瀬戸内市の無人島・青島で4泊5日の「青島キャンプ」を開きました。50年以上続く伝統あるキャンプで、生徒の自立・共生の意識を高めることが主な目的です。運営や現地サポートには、関西学院大学の多くの学生が関わっているため、関学ファミリーの絆を強く感じる行事です。参加者は2年生全員で、グループごとにそれぞれの日程で活動しました。

電気、ガス、水道がない中で、仲間と協力して火を起こして食事を作ったり、テントを立てて寝床を作ったりすることで、普段から言われている「資源を大切に、仲間と協力する、自ら行動する」ことを実践として学びました。

3日目には、全員参加の1<sup>st</sup>遠泳が行われました。入学時は5<sup>分</sup>しか泳げなかった生徒も、この日に向けて体育科教員と練習を重ねたため、ほぼ全ての生徒が完泳。大きな達成感を味わいました。4日目のカウンセルファイヤーでは、

一人ひとりが今後の目標やキャンプでの学びを発表。「家があることや食事が用意されていることは当たり前ではないと気付いた」「自分一人ではこのキャンプを乗り越えられなかった」など、当たり前前に感じている日常や仲間への感謝の言葉が多く聞かれました。

指導を担当した西村<sup>みちのぶ</sup> 啓展 教諭は「キャンプを通して生徒たちはたくましくなる。学校では見ることのできない姿が見られ、すごい力を発揮する生徒もたくさんいた」と生徒らの成長を振り返りました。

中学部の無人島キャンプ  
仲間と絆深めたくましく成長

↓電気、ガス、水道のない環境下でもたくましく生活



↑全員が1<sup>st</sup>の遠泳にチャレンジ

剣道部女子が  
4年ぶりの関西制覇

「第41回関西女子学生剣道優勝大会」が9月10日、大阪市中央体育館で行われ、剣道部が4年ぶりに関西制覇を達成しました。

関西学院大学は、2回戦から登場。持ち前の勝負強さで2、3回戦、準々決勝を無敗で勝ち上がります。準決勝の立命館大学戦でも落ち着いた試合運びで2勝を先取り、逃げ切りです。決勝の大阪教育大学戦は、先鋒が引き分け、次鋒が敗北し、追う展開となります。中堅で勝利し、副将と大将は引き分けで、代表戦に持ち込み



ました。代表戦は、女子リーダーの岡田春希選手（法学部4年生）が冷静に攻め込み、優勝を決めました。

岡田選手は「チームの雰囲気良かったので、試合前から今日は勝てると思っていました。チームの団結力で勝てたと思います。しっかり練習して、全国大会に挑みます」と話しました。

黒瀬俊・理工学部教授と森田雅也・文学部教授が  
日本学術振興会から審査委員表彰

黒瀬俊・理工学部教授と森田雅也・文学部教授が日本学術振興会（JSPS）から平成28年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）および国際事業委員会書面審査員の表彰を受けることになり、9月8日、西宮上ヶ原キャンパスの学長室で村田治学長から表彰状を受け取りました。

特別研究員事業および国際交流事業における選考審査は専門的見地から2段階、または3段階で行われますが、第1段階の書面審査は全ての審査の基盤となるため、その役割は非常に重要です。同会では、当該検証結果に基づき、書面審査において有意義な審査を付した専門委員等を表彰しており、本年度は書面



審査を行った約1,500人の専門委員等のうち、表彰対象の2年目に当たった約600人の中から158人が選ばれました。

黒瀬教授は「ピアレビューは責任ある仕事だが、私自身、非常に勉強になりました。このような賞を受賞できてうれしい」と話し、森田教授も「研究人口が多く、伝統ある日本文学という分野での受賞は大変名誉なこと。うれしく思います」と喜びを語りました。

読者アンケート&プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で10名様に「カラーマグカップ（白）」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2017年12月15日（金）。当選は発送をもってかえさせていただきます。



スマートフォン



パソコン URL ↓

<http://www.kwansei.ac.jp/r/kgjournal/>

※お寄せいただいた個人情報には、プレゼントの発送以外では利用いたしません。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。▶関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム URL→<http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html>





# 世界の街角から

## Kingdom of Spain

UniCarriers Manufacturing Spain S.A.

長崎 鈴香さん

(2009年経済学部卒)



↓パンブローナ市(スペイン ナバラ州)の街並み



## 「等身大の自分」で 違いを超え対等に向き合う

ここは牛追い祭りで有名なパンブローナ、スペイン。関学卒業後に入社した会社が分社・統合を繰り返す中、日本⇄スウェーデン⇄ドイツでの勤務を経て、現在は、フォークリフト(荷役運搬自動車)を製造するスペイン工場の調達部門で働いています。

以前から、将来は海外で働きた

いという思いがありました。大学在学中には、交換留学先の米国で国際ビジネス

を専攻し、実践的な課題にかなり鍛えられました。初めは授業に付いていくだけでも精いっぱいでしたが、チームでビジネスコンペや株式投資をしたり、企業に直接アポをとってインタビューした

りする中で、自分に自信が持てるようになりまし。特にチームメイトや相手が必要な課題では、自分一人では到達できなかった成果への達成感がありました。

今後、ポータルレスな社会が加速し、日本でも「あうんの呼吸」「以心伝心」のようなハイコンテクスト文化が通用しつらくなる日が近いかもしれません。大学時代はリスクリーでいろいろな経験ができるので、等身大の自分で、積極的に活動の幅を広げて、A Q 値(逆境対応力)をどんどん上げてください。



↑職場の同僚と

国各地に在籍するチームメンバーとのコミュニケーションとても苦労しました。物理的な距離や文化の違い、専任業務とのバランスが弊害

## 協定校紹介

Kingdom of Spain

### ポンペウ・ファブラ大学 Pompeu Fabra University

1990年にカタルーニャ州政府により設立された新しい大学で、バルセロナにCiutatella、Poblenou、Marの三つのキャンパスを有します。国際化に力を入れ、世界で250校以上の大学と提携を結んでいます。

留学生の受け入れにも積極的で、在籍者数は約1,500人です。修士レベルでは学生の36%、博士レベルでは52%を留学生が占めています。学部レベルの授業を英語で行うコースとして、International Business School等があり、就職率が極めて高い大学です。





大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の最新情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

大学図書館の旬な情報をお届け

Libraring



## 「第18回J.C.C.Newton賞」作品募集！

J.C.C.Newton賞は、大学図書館の理念「知的交流・創造の場としての大学図書館」にもとづく広報活動の取り組みの一つとして2000年度に創設され、初代図書館長であるJ.C.C.Newtonにちなんで名付けられました。

第18回のテーマは「結(けつ・ゆい・むす・ぶ)」。「結果」「完結」「結成」「結末」「結論」「結婚」「結納」「縁結び」「愛の結晶」「一致団結」「起承転結」など、「結」から連想される題材を自由に選び、新鮮な感覚にあふれ、既成概念にとらわれない作品(小説、エッセイ、論説など)を募集します。

応募期間は9月25日(月)～11月2日(木)です。

詳しくは、大学図書館ホームページをご覧ください。  
( <http://library.kwansei.ac.jp/about/activity> )

※J.C.C.Newton賞は、今回をもちまして終了とさせていただきます。



## 教職員の新刊

### 中世ふしぎ絵巻

西山克文学部教授共著  
ウェッジ

### “誰がなぜゲーム”で問う正当性

野波寛社会学部教授著  
ナカニシヤ出版

### なるほど!心理学研究法

三浦麻子文学部教授監修・著  
北大路書房

### 基礎から学べる租税法

一高龍司法社会学部教授共著  
弘文堂

### 財政学

小西砂千夫人間福祉学部教授著  
日本評論社

### 国際会計の実像

杉本徳栄経営戦略研究科教授著  
同文館出版

### 中国雲南省少数民族から見える多元的世界

荻野昌弘社会学部教授共編著  
明石書店

### 南アジア系社会の周辺化された人々

関根康正社会学部教授共編著  
明石書店

### 電力・ガス自由化の真実

野村宗訓経済学部教授共著  
エネルギーフォーラム

### 社会はどこにあるか

奥村隆社会学部教授著  
ミネルヴァ書房

### 日本で神学する

栗林輝夫セレクション1  
大宮有博法学部教授共編  
新教出版社

### 二大政党制の崩壊と政権担当能力評価

山田真裕法学部教授著  
木鐸社

### クリスマスの原像 福音書の降誕物語を読む

嶺重淑人間福祉学部教授著  
かんよう出版

### 現代中小企業のソーシャル・イノベーション

現代中小企業のソーシャル・イノベーションについて、理論的・実証的・政策的に議論展開し、地域中小企業こそがソーシャル・イノベーションの担い手であり、中小企業を長く地域に存立させることこそが持続可能な地域づくり(サステイナビリティの実現)へとつながることを理論的に体系化しています。ケース研究をはじめ、さまざまな角度からソーシャル・イノベーションが地域中小企業の信用力創造の源泉となっていることを読み解いていきます。



佐竹隆幸・経営戦略研究科教授編著 350ページ 同友館



### 社会心理学のための統計学



本書は、心理学や社会学のデータを分析するときに使える多変量解析の手法について解説しています。ただ、タイトルにもあるように「社会心理学のための」という点も重視しており、社会心理学を学ぶ上で知っておいてほしい構成概念についても理解できるように執筆しました。統計学と社会心理学を同時に学べる教科書となっていますので、特に社会心理学を勉強したい学生にお薦めです。

清水裕士・社会学部准教授著 148ページ 誠信書房





すべて良い木は良い実を結び、  
悪い木は悪い実を結ぶ。  
良い木が悪い実を結ぶことはなく、  
また、悪い木が良い実を結ぶこともできない。

マタイによる福音書 7章17、18節

学生の頃、魅力的で敬意を感じる生き方をしている人を見つけると、その人の言葉や行動を真似てみたものです。しかし真似では長続きしません。それでも真似てみるうちにいつしか、直接目には見えないけどその人の背後にあって原動力になっていた「何か」を探るようになりました。そして、どう生きるとしても原動力となる信念や価値観あるいは哲学の部分、いわば「木」(根、幹、枝)の部分が大事なのだと後に考えるようになりました。

さて、キリストは、行為者(木)のあり方を問う文脈で上の言葉を語りました。「結果が全てだ」と言いたいのではなく、むしろ、「木」をしっかりと考えよう。表向き

学生の頃、魅力的で敬意を感じる生き方をしていられず本質を見よう、という趣旨だと思えます。宗教改革者ルターいわく、「善きわざが善き人をつくらず、善き人が善きわざをなす。(中略)。あらゆる善きわざに先立って、実体そのもの、あるいは人格そのものがよくなるなければならぬ」。

関西学院は、人の「木」の成長を大切に考える全人的教育の場です。常に「良い」実を結ぶことは私たちに困難でしょう。しかし、より長いスパンで、将来、自分の生涯を一つの「実」として回顧した時に、神から見ても、また世界にとって、小さくても「良い」実になっているような、現在のあり方・学び方を求めてゆきたいものです。

編集後記

「楽しいから」「うまくなりたから」という思いで始めたスポーツを通じて、学生たちは本当にかけがえのないものを得ているのだなと感じた。大切な仲間も、諦めない心も、大きな挫折も、きつと学生たちの将来を支えてくれる財産になると思う。スポーツって素晴らしい！(りよ)

関西学院大学 Facebook



いいね!

関西学院大学の身近なニュース、キャンパス風景、動画などを紹介。英語版ページもますます充実。「いいね!」をして関西学院大学の情報をゲットしよう。



日本語版

英語版





## DAYS OFFICE

「オフィスらしさ」より、これからは「働く人らしさ」が大切。  
ワークスタイルとライフスタイルの境目があいまいになる中で、  
働く場としてのオフィスに求められることも変化しています。  
仕事のことも、プライベートのことも、同じ感覚で話すことができる。  
予想もしなかったような人やモノと出会い、日々気づきや発見にあふれている。  
一人ひとりの「らしさ」に寄り添い、自分ならではの気持ちいい使い方ができる。

働く人が大事にしたい価値観を、  
ちゃんと大事にできる余白があるオフィスへ。

**ワークスタイルも、ライフスタイルだ。**